

アオバズク

Ninox scutulata (Raffles)
フクロウ目・フクロウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧II類 旧：県域絶滅危惧II類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県には夏鳥として渡来し、ほかのフクロウ類より記録は多いが、生息可能地での夜間調査による出現率が40%程度であり、減少傾向にある。

種の特徴

全長27～31cmの中形フクロウ類で、眼は黄色、羽角がなく尾が長い。低地や低山帯のケヤキ、スギ、タブ等の大木の樹洞を利用して繁殖する。夜行性で、セミ類、甲虫類、鱗翅類等大型昆虫類を主食とするが、コウモリ類、カエル類、小鳥類等も捕食する。

分 布

全国に夏鳥として渡来し繁殖するが、奄美諸島以南では越冬する。本県では、社寺林、公園、屋敷林等の人里に近い環境で繁殖している。

生息を脅かす要因

人里近くで繁殖するため、カメラマン等の接近による繁殖行動への影響がある。また、営巣木として欠かせない大径木の消失と主食となる大型昆虫類の減少が脅威となる。そのため、営巣木が失われた場合の巣箱の設置や昆虫類の多様性の確保が不可欠である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、中村・中村（1995）、高野（2015）、大庭（2007）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○	○	○	○	○		○	○			○		○	○	○	○

ハヤブサ

Falco peregrinus Tunstall
ハヤブサ目・ハヤブサ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧II類 旧：県域絶滅危惧II類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧II類

選定理由

本県には、10～20ペアの生息が推定されるが、繁殖成功率の低下やペアの消失が確認されており、生息・繁殖状況は明らかに悪化している。

種の特徴

全長は41～49cm、翼開長84～120cmで、雄より雌の方が大きい。頭～後頸は石板黒色、背・翼・尾は暗青灰色で、頬にはひげ状の黒斑がある。飛んでいる小形～中形の鳥類を、時速300kmに達するという急降下で襲い、空中捕獲や蹴落としたりして捕える。

分 布

留鳥として島嶼を含む九州以北で繁殖するほか、冬鳥として全国に渡来する。本県でも、留鳥として断崖や人工建築物に定着している個体と、非繁殖期に移動してくる個体がいる。

生息を脅かす要因

断崖が少ない上に、落石防止用の吹付けが行われることがあり、営巣環境は悪化している。また営巣環境に変化がない生息地でも、繁殖成功率が低下しており、狩猟機会の減少で餌不足に陥っている可能性もある。営巣地の多様性と多様な鳥類相の保全・再生が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県（2002）、大西・真木（2000）、高野（2015）、中村・中村（1995）、黒澤（2008）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○	○	○	○	○	○			○		○	○	○	○	○

コジュリン

Emberiza yessoensis (Swinhoe)
スズメ目・ホオジロ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧II類 旧：県域絶滅危惧II類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧II類

選定理由

近年では九頭竜川下流の河川敷でのみ少数が記録されている希少種である。ただし、目視確認や近縁種との識別が難しいため見逃されている可能性もあり、標識調査等確実に識別できる調査を実施し、今後の動向に注目していく必要がある。

分 布

本州中部以北と熊本県の草原や湿地で局地的に繁殖し、本州中部以南のヨシ原等で越冬する。本県では過去に三方五湖周辺、近年では冬季に、九頭竜川下流域で数例の記録がある。

生息を脅かす要因

本種が渡り期に利用する、ヨシを始めとする高茎草地の減少が考えられる。そのため、主な記録地である九頭竜川下流をはじめ、中池見湿地、若狭町力ヤ田、三方五湖、北潟湖等の比較的まとまった高茎草地は保全し、標識調査を行い、生息状況を把握する必要がある。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、福井県自然環境保全調査研究会（1999）、福井県（2002）、日高（1996）、大西ら（2014）、中村・中村（1995）、高野（2015）

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○			○							○						

種の特徴

全長約15cmのスズメ大の少しほっそりした雌雄異色の茶色の小鳥で、雄の夏羽では頭部が頭巾を被ったような黒色になる。草原に生息し、草の間の地上でタデ科やイネ科の種子等を拾って食べるが、繁殖期には昆虫類も採餌する。